

令和3年度夏 あらかわ俳句吟行会

対象	区内在住・在学・在勤の方
投句数	93句
投句者数	24人
投句条件	①区内を吟行し、俳句を詠むこと ②夏の季語を用いること
選者	佐々木 忠利氏（荒川区俳句連盟会長）
期間	令和3年6月1日（火曜）から6月26日（土曜）

特選	慰霊碑を守る古刹や額の花	一色 由美子さん
選評	由緒ある古寺の一角に事故や戦争、災害等で亡くなった人、動物の霊を慰める為に建立された慰霊碑を取り囲む様に、梅雨空の下で瑞々しく額紫陽花が盛りを迎えている。実景実写にリアル感があり、詩情に富んだ作品。（荒川区俳句連盟会長・佐々木忠利氏）	
入選	遠雷の聞こへて雲の落ち着かず	内藤 春夫さん
	荒梅雨に静かな怒涛隅田川	博堂さん
	初恋の賞味期限を薔薇に問ふ	鈴木 真理子さん
	青嵐閉店告げる手書き文字	木下 君穂さん
	目高の子古刹に江戸の手水鉢	横須賀 智子さん

令和3年度秋 あらかわ俳句吟行会

対象	区内在住・在学・在勤の方
投句数	85句
投句者数	24人
投句条件	①区内を吟行し、俳句を詠むこと ②秋の季語を用いること
選者	佐々木 忠利氏（荒川区俳句連盟会長）ほか
期間	令和3年8月21日（土曜）から9月25日（土曜）

特選	秋蝶の淡き影舞ふ煉瓦塀	一色 由美子さん
選評	立秋を過ぎてから見かける蝶は、冬が近づくにつれてその数もめっきりと少なく弱々しくなるもの。荒川遊園地周辺の煉瓦工場の跡地に今もなお煉瓦塀が残されている。淡々と詠まれているが、「淡き影舞ふ」に食指が動く。（荒川区俳句連盟会長・佐々木忠利氏）	
入選	振り向かせ呼び戻したる金木犀	長谷川 洋子さん
	秋晴や朱を極めたる門構へ	田中 礼子さん
	歓声も悲鳴もなくて秋に入る	大越 源一さん
	天を衝くスカイツリーや街の秋	櫻井 祥香さん
	寺町や伽藍縁取る稲光	畠山 哲央さん